

学生に読ませたい本 vol.3

篠森 大輔



坂本賢三『「分ける」こと「わかる」こと』（講談社学術文庫 1767、2006 年）（初出：講談社現代新書 651、1982 年）

専門用語自体を知っていても、その意味内容を説明できない学生は多い。勉強不足かどうかはさておき、高校時代まで一問一答式の勉強の弊害であるとすれば、教員側にも何らかの対応が求められる。筆者は、「分類」という思考方法を学生に意識させながら法律知識を説明することに一定の効果があると感じている。分類は一定の基準を立てて行われる。その基準の根拠を問い、分類の結果の意義を考察することは、法概念の整理と明確化に有益である。目下の課題は、このことを学生によりよく説明することである。

筆者は、授業の準備のために分類に興味をもったため、分類の技術面、実用面にとられる傾向があった。しかし、本書によれば、人間は何かを「わかつう」として「分ける」（＝分類する）のであるという。分類はわからないものを認識するための方法であるから、異質な分類体系を理解することが他者を「わかる」ということである、というのである。なるほど。旧約聖書「創世記」において、天と地を創造した神は、地の混沌を光と闇に分け、空と水に分け、水を陸と海に分けた。これは、分類という技術によって対象が切り分けられ、認識可能になっていくプロセスであるともいえる。それと同時に、旧約聖書の世界観を理解する重要な手がかりともなっているではないか。

本書はこのような例で満たされている。法律学の勉強に直接役立つものではないが、これまでの思考方法を転換させる端緒になるかもしれない。ぜひ一読を願いたい。



長澤和俊『シルクロード』（講談社学術文庫 1086、1993 年）

高校時代、ヨーロッパ史や中国史はまずまず勉強したものの、その他の地域の歴史は人名等の記憶に追われていたことを白状しよう。世界史教科書の叙述には濃淡があるから、というのは自己弁護になるまい。いずれにせよ、本書は、古い断片的暗記知識がよみがえり、結びついていく快感を与えてくれた。

私たちは平生シルクロードを東から西に向かって眺めることが多い。シルクロードをめぐる東西交流史は、中国史の延長線上で言及されることが多かった印象がある。中高で学んだ漢詩、王維「送元二使安西」もそうだった。この詩は「西域」に向けて長安を発つ友人との別離を詠んだものである。そして、80年代前半に放送された「NHK特集 シルクロード」の出発点もまた長安であった。それに対して、本書では、まさにシルクロードに立つ者の視線でその歴史が語られる。それだけに叙述は複雑となるが、そこには視点を逆転させたおもしろさがある。

80年代、上記番組の影響でシルクロードブームが巻き起こった。当時小学生の私にもそのイメージが刷り込まれた。そのため私にとってシルクロードは今なお東から眺めるものである。サマルカンドは「西域」のさらに西の果てにある憧れの街であり、エキゾチシズムの極みである。そのような者が、シルクロードの「終着点」であるローマの法を勉強することになろうとは、当時は夢にも思っていなかった。

（法学部准教授）

編集後記

今年度2号目のニュースレターをお届けします。夏から秋にかけて実施された国際的なシンポジウムと外国からのお客様をお迎えしての講演会を中心に、2本の特別寄稿、そしていつものように研究の窓で構成しました。研究の窓に関しては、ここ数年新しい所員を多数お迎えしている中、自分の番が回ってこない、やきもきしている方も、いらっしゃるかもしれません。なるべく多くの皆さまをご紹介できるようにしたいと考えています。ご協力をお願いします。

本研究所の元特別研究員の近江先生からは、とても嬉しいお知らせをいただきました。特別寄稿をいただきました青木先生のご原稿の掲載が、こちらの手違いで大変遅くなり、申し訳ありませんでした。(M)

法学研究所

所長	小森田秋夫	教授
常任委員	井上 匡子	教授
	嘉藤 亮	准教授
	東郷 佳朗	准教授

地方自治センター

センター長	安達 和志	教授
運営委員	出口 裕明	教授
	三浦 大介	教授
	諸坂 佐利	准教授

国際人権センター

センター長	阿部 浩己	教授
運営委員	山崎 公士	教授
	井上 匡子	教授
	嘉藤 亮	准教授

神奈川大学法学研究所 ニュースレター 2015.3/No.19

発行者：神奈川大学法学研究所 小森田秋夫
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 TEL 045-481-5661 (代表) FAX 045-413-6141

印刷所 (株)江森印刷所
〒221-0014 横浜市神奈川区入江1-34-25 TEL 045-421-2297